サイエンスアゴラ 2020.11.21 18:00-19:00

「マルトリ予防」と「とも育て」ってなんだろう？

ー脳科学から育むミライ

本日のプログラムは
40分程の映像+ディスカッション

山田 肇さん
東洋大学 名誉教授
NPO法人情報通信政策フォーラム理事長

みなさん、一緒に
「とも育て」について
考えましょう。

友田さんによる解説

「マルトリ」とは？　マルトリートメントの略
虐待とは言いきれない
大人から子供に対する避けたいかかわり。

友田 明美さん
福井大学 子どものこころの発達研究センター教授

ネグレクト・虐待以外に
ちょっとした親の言動で
子供の心は傷つく
ことがあります。

例えばこんな「マルトリ」

マルトリは成長後のこころのトラブルにつながる。

マルトリは脳を傷つける。

体罰は
百害あって
一利なし！！

前頭前野
体罰で小さくなる
心がある場所
→ 非行・うつ病へ。

聴覚野
暴言で変形
言葉の理解力が↓

視覚野
親のDVを見聞きすると、
小さくなる。

マルトリを虐待と言いたくない。

マルトリは子育て困難な家庭からのSOS！

育児の孤立化
相談できる人 ✕　預けられる人 ✕　子供を叱ってくれる人 ✕
いない
孤育て になっている。

親の心が折れる → 脳が弱る → きょうどう子育てがむずかしくなる。

こうなる前に周りが早くキャッチして
色々な子育て支援をすることが大切。

とも育て
社会が子育てをしていく概念。

みんなでおせっかいをやいていこう！

友田さんと奥山さん対談

奥山 千鶴子さん
認定NPO法人びーのびーの理事長
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

親の学ぶ機会は？

横浜でも4人に3人が
「自分の赤ちゃんが初めてお世話をする赤ちゃん」

赤ちゃん0才は
親年齢も0才！！

教育がものをいう！

10代の学校教育で
マルトリ予防などを
しっかり学び考えてほしい。

近くの中学校と「赤ちゃんのふれあい体験授業」やっている。

義務教育の間に
赤ちゃんとふれあう
お母さんの話をきく
ことが重要

実家が遠い…

アウェイ育児

全国でも7割以上

検診でも赤ちゃんのことは
よくみてくれるけど
親（自分）の事を話す機会がない。

親のメンタルケアが必要

子育ての悩みはたくさんある
親に寄り添うような
取り組みがあれば…。

完ぺきな親　イヤイヤ期

「ほめ育て」のススメ

ほめられずに育った親は
我が子をほめるのが苦手

どうほめたらいいの？

お父さん お母さん がんばってるね！
よくやってるね！
大丈夫だよ！

周りがちょっと一言
親をほめてあげる
自信をもって、子供をほめられるようになる。
→ ほめ育ての連鎖をつくる。

ママ友
パパ友同士でも
ほめ合ってください。

「とも育て」が働くと脳が回復する

困っている時は頼っていいんだよ。
子育て困難はSOSだから
みんなで支え合っていきましょう。

親自身の自己肯定感を高める ← ねぎらい
子どもの自己肯定感を育む。 ← ほめる

科学的な根拠に基づいた子育て

- 社会的に広めていくこと。
- 支援者がしっかり理解して活動していくこと。
- 相談機能の連携。

とも育ては地域子育て支援拠点でもできる。

解説と対談を聞いて

虐待を生じさせないために
脳科学のエビデンスに
もとづいての予防を。
さらに「とも育て」が重要。

虐待を防ぐために
近隣の人にできることは
「温かく見守る」こと。
そして一歩ふみこんで
「小さな手伝い」
子ども子育てにやさしい社会を。

吉田 恒雄さん
駿河台大学 名誉教授
認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事長

かかえた問題から
結果として不適切な育児に
なってしまうのだと思う。
周りにいる人たちが育児に
かかわっていくことが大切。

石井 光太さん
作家
小説・児童書・ルポ
TVドキュメンタリー
コメンテーターなど活動

親と子のコミュニケーションを
より必要なのではないか。

地域の支援においては
すべての子どもや親に対して
自分が等身大でできることをやる。

友田さんの研究は
「心の傷」が
脳におきている事を
見つけた。
それを防ぐ方法も
一緒に考えてくれているのが
すごく大事です。

質問とディスカッション

視聴者からの質問に答えます。

脳機能を回復するとは？

早い時期からマルトリをなくす
サポートをする
アタッチメント（愛着）の再形成をする。
脳はこわれて終わりではない。
大人になっても回復することが
研究からわかってきている。

世代間連鎖について

厳格な体罰は
あまり連鎖しない。
（世の中が体罰禁止になってきたため。）
↓
世の中の流れを変えることで
世代間連鎖も変えられる。

大人たちが語れる場が少なかった。
守られた環境で語れる場、
いつでも戻ってこられる場所を
作っておくことが大切。

学校教育の中で子育てを教えられるか。

（ふれあい体験教室では）
中学生たちが子どもとふれ合い
本当にいい笑顔をみせる。
お母さんたちも生き生きと語る。
中学生にとってすごく良いことだから
ぜひ、家庭科の授業に
とり込んでほしい。

どうすれば親がほめる方向へ支援できるか。

ねぎらうだけでいい。
寄り添ってあげてほしい。
上から目線で責めないこと

保護者の方の得意を
見つけてあげる。
支援されるばかりではなく
自分が活動するなかで
子育てに対しても主体的に
なれる。

「とも育て」を実践する具体例は？

なにげない → 泣いてる子としかっている親に声かけ。
おせっかい。 → 地域の人が「困ってることない？」と声かけ。
どの人もできること。親によりそうこと。

地域のサポートを
充実させる。
まるで実家の機能のような。

子どもを泣かせないように気疲れしている親 支援を拒否されることも…。

子育て応援のカンバッチを作って
駅前でくばった。
最近は「泣いてもいいよシール」
というものもある。

脳機能低下をキャッチするには？

サインをみつける
お母さんがイライラする
家事をやる気力がない。

脳科学の話をきいて現場としては

家族をこえた支援の輪を
どう広げていくか。
地域のサービスを
もっとアピールする。
出産前からサービスを
知ってもらう
とも育てができる地域
づくりをしなければ。
根拠をもってできると
今回あとおしをしてもらえた。

マルトリ予防Webサイト
https://marutori.jp

「マルトリ予防・とも育て」今後どのように広げていく？

メディアに出るのもおせっかいのひとつ。
日本全国に広めていくために
支援者のための資材・研修、
無料動画をダウンロードできる
サイトを作りました。
「虐待」ということで親を犯罪者扱い
する時代ではない。
今みんなで立ち止まって
マルトリ予防。
そして親を支援して
とも育てをしていきましょう。